

各領域において事業所の要求水準の高い（3社に1社以上が「必ずできなくてはならない」と評価した）課題について整理した結果を、表1-9に示す。なお、これらの6領域26課題では、「できた方がよい」という評価を加えると回答事業所の76.3%～98.5%を占めることが分かった。したがって、これらの課題については、他の多くの課題の中でも特に就労前に準備しておくことが重要視されている課題といえる。

表1-9 3社に1社が「必ずできなくてはならない」と回答した課題

	課 題	単 位（％）	
		必ずできなく てはならない	できた方がよい 合計
日常生活（1/10課題）	トイレの利用	81.6	98.5
職業生活（14/26課題）	物を無断で持って行かない	80.5	97.7
	自他のものが区別できる	68.3	94.4
	仕事中騒いだりしない	64.9	95.2
	目印で自分のものが分かる	62.8	93.2
	道具を使ったら必ず返す	57.4	93.7
	約束を守る	54.2	89.5
	順番や交代の意味が分かる	50.6	87.9
	うそや言い訳をしない	45.6	86.7
	決まりや礼儀を守る	42.7	83.4
	むやみに休まない	41.2	88.3
	素直に注意を聞く	39.5	87.8
	怠けたり手抜きをしない	35.5	87.2
	仕事は責任を持ってやる	34.0	82.3
	ふざけずに仕事をする	33.8	77.7
作 業（2/6課題）	道具などを正しく使う	42.5	84.9
	道具を 注意して運搬する	33.8	78.6
協調性（4/10課題）	自分勝手な行動をしない	45.2	86.3
	身近な人にあいさつをする	39.0	80.2
	「ありがとう」「ごめんなさい」	38.4	81.9
	人に迷惑をかけたときに謝る	38.3	83.1
意思の表示（5/25課題）	名前を呼ばれたら返事をする	60.4	92.6
	作業が分からないときは聞く	47.0	87.4
	指示や説明を正しく聞き取る	40.4	85.6
	仕事が終わったら報告する	39.4	83.1
	話が分からないときは聞く	38.9	82.5
一般的知識（2/7課題）	119番や110番が分かる	43.4	80.3
	水、電気、ガスなど大切に使う	39.0	76.3

これらの課題をみると、『日常生活』では、「トイレの利用ができること」、『職業生活』では、“所有の関係が分かること” “仕事に集中して取り組むこと” “仕事に責任を持つこと” “注意を受け入れ、決められたルールが守れること” が求められているといえよう。また、『協調性』では、“挨拶ができること”に加え、“身勝手な行動をせず、もし、人に迷惑をかけたなら謝罪ができること”そして“お礼が言えること”が求められている。『意思の表示』では「名前を呼ばれたら返事ができること」、

「作業終了の報告ができること」といった基礎的なスキルに加えて、「指示や説明を正しく聞き取ること」が求められている。一方で、もし“分からなければ聞けること”が求められている。『一般的な知識』に関しては、緊急事態を知らせることのできる「110番、119番が分かること」そして、会社の経費となる「水・電気・ガスなどを大切に使う」ということを認識していることが求められている。

これに対し、一般就労の実現に際して、3社に1社以上の事業所が「できなくてもさつかえない」と回答した課題は1課題もなかった。そこで5社に1社以上が「できなくてもさしつかえない」とした課題について整理した(表1-10)。

表1-10 5社に1社以上が「できなくてもさしつかえない」と回答した課題
単位(%)

	課 題	できなくても 差し支えない
日常生活	掃除・洗濯	25.0
	余暇の過ごし方	24.6
	食事の支度	22.1
職業に関する知識・理解	保険などの制度が分かる	28.2
	PES0などの役割が分かる	25.6
	職業の名前が言える	21.3
一般的知識	選挙の意味が分かる	28.7
	よく使う外来語が分かる	23.9

その結果、3領域8課題が挙げられた。これらの課題は、直接仕事と関わりのない『日常生活』領域の3課題と知識に関わる領域(『職業に関する知識・理解』『一般的知識』)の5課題であった。

第4節 課題達成の時期

一般企業で就労するためには「採用時点で何ができるのか」という視点で課題達成の評価が求められる。このことについては、知的障害があっても例外ではない。しかしながら、障害特性からみて、同年齢の健常者が担うことのできる職業上の役割を同じように担うことは難しい。したがって、受入れ側企業が「採用時に何ができていることを求めるのか」が知的障害者雇用の成否を分けることになる。加えて、採用時にはできなかったとしても「採用後、どのくらいの期間を見込んでできることを求めるのか」については、雇用促進を検討する際に同様に重要である。

ここでは、知的障害者の雇用経験のない事業所の意見(第1章第3節)で検討した8領域96課題の達成時期について検討する。

1. 達成時期に関する事業所全体の意見

就職をめざす知的障害者は8領域96課題をいつまでに達成することが望ましいかについて、「就職するまでに」、「就職後3ヶ月くらいまでに」、「就職後6ヶ月くらいまでに」、「就職後1年くらいまでに」、「就職後3年くらいまでに」と「考えたことがない(わからない)」で評価を求めた。

企業規模別・業種別に意見の違いがあるかどうかを検討したところ、規模別の差は96課題中に1課題、業種別の差は5課題であったことから、概ね共通する意見を持っていることが明らかとなった。そこでここでは、事業所の属性に関わらず「雇用経験のない事業所の意見」として一括して検討することとした。

表1-11に領域別の回答の概要を示した。回答の分布は課題によって異なるが、課題達成の時期の見積りの違いをみるために、回答事業所の8割を超える時期がどのあたりなのかにより、4つに分類した。

達成することが望ましい時期が「就職するまでに」で8割を超える課題については、就職後の成長を見込んだ指導課題とは受けとめられていないという点で注目すべき課題であるといえる。こうした課題は『日常生活』に1課題、『職業生活』に1課題であった(表中“ ”で囲んだ課題)。

また、「就職するまでに」+「就職後3ヶ月くらいまでに」で8割を超える課題については、就職後の成長を見込んだとしても、きわめて短期間の指導課題と受けとめられている課題である。こうした課題は『日常生活』に3課題、『職業生活』に14課題、『作業』に6課題、『協調性』に3課題、『意思の表示』に4課題で、5領域に30課題あった(表中“ ”印の課題)。

また、「就職するまでに」+「就職後3ヶ月くらいまでに」+「就職後6ヶ月くらいまでに」で8割を超える課題については、就職後の半年くらいまでの指導課題と受けとめられる可能性のある課題である。こうした課題は6領域にわたり38課題あった(表中“ ”印の課題)。

これに対し、「就職後1年くらいまでに」もしくはそれ以上の回答で8割を超える課題については、就職後の比較的長い時期を見込んだ指導課題として受けとめられる可能性のある課題といえる。こうした課題は7領域に26課題あった(表中“ ”無印の課題)。

表からは、早い時期に達成することが期待されている課題が多い領域(『日常生活』『職業生活』『作業』)と達成までに許容される猶予期間のある課題が多い領域(『一般的知識』『職業に関する知識・理解』『特徴』)があることが明らかになった。

表1-11 一般就労を実現するための課題を達成する時期に関する意見

日常生活に関する10課題		協調性に関する10課題	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">トイレの利用</div> 食事のマナー 身なりを整える 身辺の清潔	けがの予防 けがの対処 整理・整頓 食事の支度 掃除や洗濯 余暇の過ごし方	あいさつ 自分勝手な行動 「ありがとう」等 他人に協力 謝意を表わす	協力を受け入れる 失敗をとがめない 場に応じた挨拶 迷惑をかけたら謝る 場の雰囲気分かる
職業生活に関する26課題		意思の表示に関する25課題	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">無断で持出さない</div> 目印でわかる 仕事で騒がない 使ったら返す むやみに休まない 注意を聞く 約束を守る 手抜きをしない 言い訳をしない ごまかさない 道具を大切に 順番がわかる	決まりを守る ふざけない 自他の区別 辛抱強い仕事 指示を受け入れる 責任を持ってやる まじめに仕事 反復作業に耐える 無駄話をしない 整理・整頓 仕事に耐える ねばり強い仕事 積極的に取り組む 工夫して仕事する	返事をする 作業内容を聞く 話を聞き返す 仕事の終了報告 依頼や訴え 上司に報告する 正しく聞き取る 気持ちの表現 要望や不満 簡単な伝言 視線をあわせる 上司に話す 感情を出さない時	説明が分かる 相手の気持ちが分かる 上司などに伝言する 聞き手を見て話す 順序よく話す 場に応じた対応 ていねいな言葉 立場をわきまえる 意見も述べる 分かるよう話す 電話の取り次ぎ 電話を利用する
作業に関する6課題	一般的知識の7課題	職業理解の9課題	特徴に関する3課題
道具を正しく使う 道具を大切に扱う 道具を運搬する 準備、後片づけ 作業変更を覚える 道具などの管理	119番や110番 水、電気、ガスの使用 警察署などの働き 諸届などの意味 諸届などの記入 選挙の意味 外来語が分かる	自分の分担 仕事の責任 分担や協力 基本的労働条件 履歴書などの書写 職業の名前が分かる 保険の制度が分かる 職場の組織がわかる PESOの役割が分かる	得意・不得意が分かる やってみたい仕事 が分かる むいている仕事 が分かる

備考 : 「就職まで」が8割を超える項目
 : 「就職まで」+「就職後3ヶ月」が8割を超える項目
 : 「就職まで」+「就職後3ヶ月」+「就職後6ヶ月まで」が8割を超える項目
 無印 : 「就職1年以上」で8割を超える項目

2. 就労の実現のための必要度と達成時期

図1-9～図1-11は、「一般就労を実現するために、8領域96課題がそれぞれの程度できなくてはならないと考えているか」について尋ねた結果と達成時期の回答を比較したものである。必要度の評価は「必ずできなくてはならない」から「できなくてもさしつかえない」までの4段階及び「考えたことがない」に分布する。

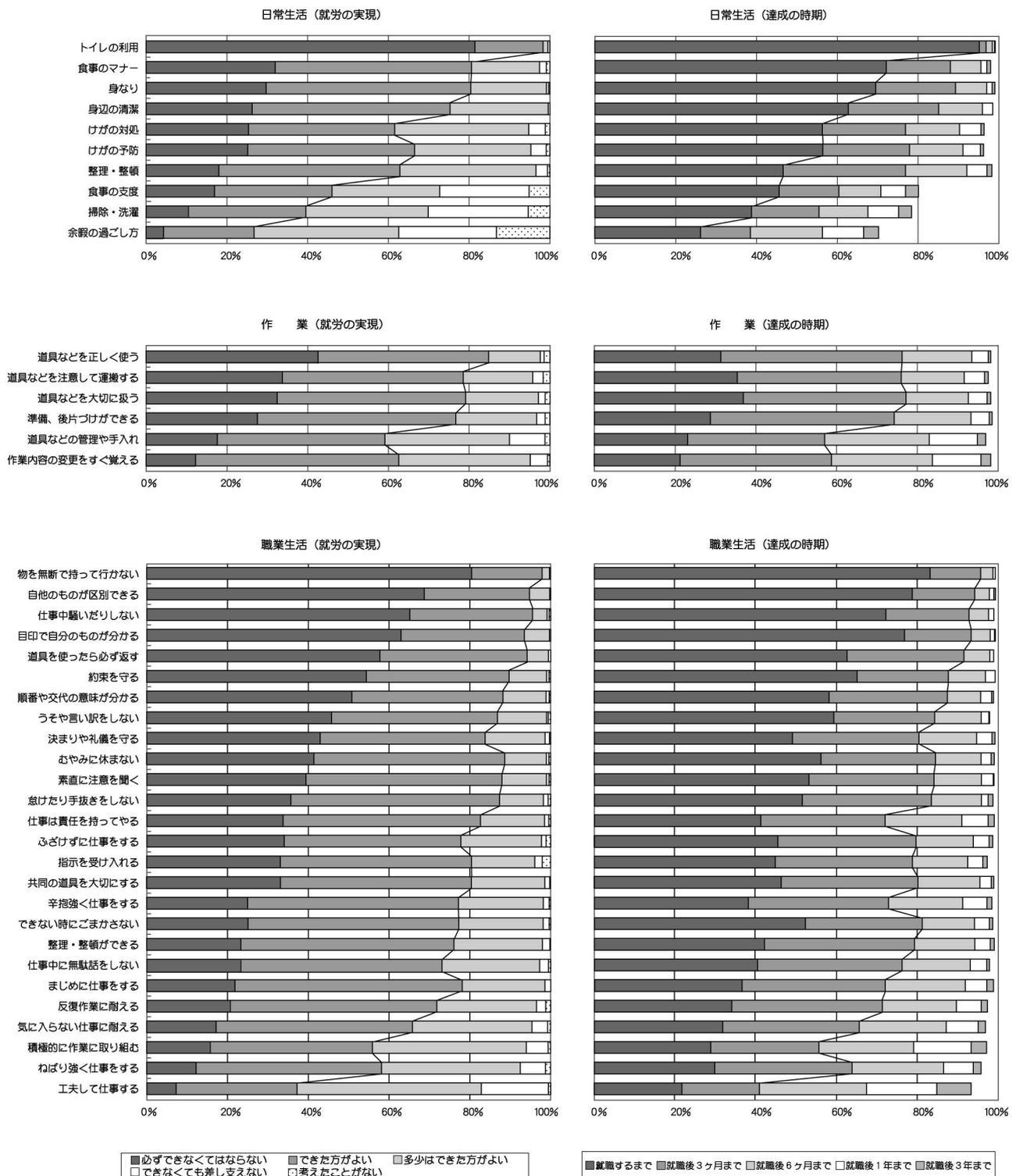


図1-9 就労の実現と達成時期（その1）